

日本生物教育学会第 109 回全国大会（広島大会）

公開講演会

産学官民連携による持続可能な生物教育と地域振興
—海の生き物を活用する海洋教育の実例—

東京大学名誉教授

赤坂 甲治

令和 7（2025）年 3 月 16 日 10：45～12：15

安田女子大学 安東キャンパス

産学官民連携による持続可能な生物教育と地域振興 —海生き物を活用する海洋教育の事例—

東京大学名誉教授
赤坂 甲治

私は、生物の研究に邁進してまいりましたが、その一方、児童生徒市民に対する生物教育にも精力的に勤めて参り、産学官民の連携による生物教育のモデルをつくり上げて参りました。その原動力となったのは、「生物は面白い。生物は役に立つ。だから、皆さん一緒にやりましょう。」という思いです。最初は、たどたどしいあゆみでしたが、雪だるま式に人々が集まり、巨大な産学官民の教育プロジェクトになりました。この講演会では、私が、なぜ産学官民が連携する海洋生物教育を進めることになったかのいきさつと、産学官民の連携による海洋生物教育の実践をご紹介します、その教育を永続させるしくみについて、お話をさせていただきます。

今から約 25 年前、私が広島大学にいたころ、国立大学法人化が進められおり、積極的に情報を発信して国民の理解と信頼を得られるよう努力することが求められていました。私の最初の社会連携は 1998 年にスタートした「広島大学理学部企画 中学生・高校生科学シンポジウム」でした。「与えるのではなく、引き出す」教育が好評で、発表件数は増え続け、昨年の 2024 年は 52 件の発表があったそうです。

その後、2004 年に東京大学に移り、神奈川県三浦市にある臨海実験所の所長になりました。三浦はマグロで有名ですが、驚いたことに、地元の方々は、「三浦の海の本当の豊かさを知らない。東京大学臨海実験所が何をしているのか全く興味がない。」ことを知りました。これでは、社会連携はできません。そこで、三浦市の行政と教育委員会に、三浦の海と東京大学臨海実験所は三浦の宝であることをお伝えし、一緒に海洋教育に取り組み始めました。折しも、2007 年に海洋基本法が施行され、海洋基本計画が策定され「学校教育及び社会教育における海洋に関する教育の推進」、「地域と一体になった臨海実験所の活動」などが掲げられていました。三浦市教育委員会は、教員の組織である「三浦市学校教育研究会海洋教育部会」をつくり、教員のアイデアで海洋教育するようになり、2014 年には市内の全校で海洋教育を実践するようになりました。さらには、海洋生物を活用する地域振興も神奈川県全体に広める活動も行い、2016 年に策定された神奈川県の「三浦半島魅力最大化プロジェクト」に東京大学臨海実験所が推進する産学官民連携プロジェクトが入りました。また、神奈川県経済同友会に働きかけ、京急電鉄にも参入していただき、東京大学臨海実験所、ミキモト、京急電鉄、三浦市、横須賀市、神奈川県、神奈川県立海洋科学高校、神奈川県立横須賀工業高校、地元漁協による海の生物を活用する海洋教育と地域振興のシステムが構築されました。私は東京大学を退職し、プロジェクトは終了しましたが、自律的な活動が根付いて

現在も続いており、目標は達せられたとっております。三浦の海洋生物教育の成果が、全国の海洋生物教育の発展に繋がることを祈っております。

参考 URL

[アコヤガイ | 神奈川県立海洋科学高等学校](https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kaiyokagaku-h/tokushoku/nagai/documents/akoyagai.html)

<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kaiyokagaku-h/tokushoku/nagai/documents/akoyagai.html>



[3年生実習 | 神奈川県立海洋科学高等学校](https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kaiyokagaku-h/tokushoku/nagai/documents/sougoujisshu.html)

<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kaiyokagaku-h/tokushoku/nagai/documents/sougoujisshu.html>



[長井海洋実習場 | 神奈川県立海洋科学高等学校](https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kaiyokagaku-h/tokushoku/nagai/index.html)

<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/kaiyokagaku-h/tokushoku/nagai/index.html>

